

東日本大震災 継続支援の取組



「福島を忘れないよりも、福島を思っ」て。この声は福島県の仮設住宅

「福島を思う」～学びの未来形～ 大阪国際大学

キャンパス万華鏡 写真が語る大学の横顔

で学生がボランティア活動を終え、帰阪する際、掛けられた言葉である。

ここには今後も継続して「何が出来るか」を自ら考え行動する姿勢への期待が込められている。

学生たちが被災地で直面したこと、それは「命・生きること・社会」に対し「学びをどう活かすか」という学問の最も本質的な課題だった。その解決のため、大阪国際大学では、福島県と岩手県で学生延べ二〇四人の支援活動、小学校へ九二〇〇枚のマスク提供、募金

活動など継続的支援に取り組んでいる。

現場の問題を学びの中心に据え、被災された方

々と共に手を携え「自ら果たすべき課題」への挑戦を通じて成長する姿は、学びの未来形である。